



## 蜷塚の山神社と境界の祭祀

### 井ノ元と歌謡(うた)

『入野村土地宝典』(一九三六年発行)は、都市的な開発以前の小字や土地利用を調べたのに便利な地図です。これによると、博物館が建つ場所は、「井ノ元」と呼ばれ、多数の狭い水田が密集していました。

「井ノ元」とは、水田営農に必要な用水の水源という意味です。蜷塚の下流にある入野の人びとにとっては、安定的に農業を営むために、大切な場所でした。

これに対し、現在の聖皇高等学校付近や蜷塚中学校付近は、大区画の畑で、「歌謡」という小字でした。このあたり一帯は、もともと森林だったのが、二十世紀のはじめになって、農場に開発されたのです。

近世に編さんされた地誌『曳駒拾遺』は、森林だったころの「うとう坂(歌謡坂)」について、一つの物語を紹介しています。それは、入野村のある家につかえる者が、鴨江観音に詣でるため、深夜にこの坂を通りかかったところ、歌が聞こえてきた。そこで、歌声の主を探したが、見つからなかった。つまり、うとう坂には、人の目には見えない何者がいる、ということです。

森には怪しい者がいる、という考え方は、

なまはげなどの来訪神が日本列島各地に伝えられていることから、広く人びとに共有されたものでした。また、宮崎駿の「となりのトトロ」も、「こうした日本に古くから培われてきた考え方を意識したものでしょう。

### 境界の祭祀

「井ノ元」と「歌謡」の関係を、民俗的世帯観に基づいて整理すると、「井ノ元」は、人が管理する土地、一方の「歌謡」は、人の支配は及ばず、怪しい者がいる土地、そして、博物館の正面付近は、人の支配域と怪しい者の支配域の境界になっていました。こうした境界の地点では、しばしば、祭祀が営まれました。博物館に隣接する山神社は、まさに境界の祭祀の場といつてよいでしょう。

山神社の由緒は、「当社は、その起源が詳らかでないが、往古より今日の蜷塚遺跡の東隣に鎮座し、日本古代の山岳神、大山祇命を祀つてある。」といひます(『浜松市神社名鑑』)。

山神社の「山」は、高まりをもった山岳ではなく、森という意味です。山神社は、「歌

謡」の森をつかさどる神を祭る場所でした。そしてこの祭祀は、「井ノ元」の下流で水田営農にあたる入野の人びとにとって、森にいる怪しい者との良好な関係を保つうえで大切な営みでした。

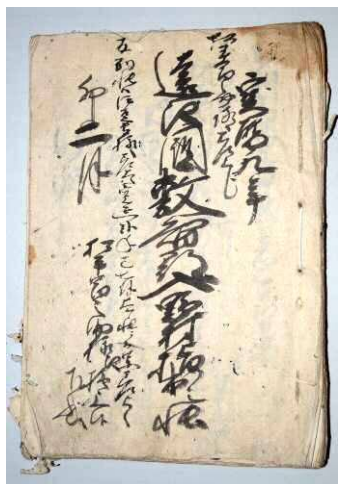
蜷塚の現状は、市街化が進み、古い民俗的世界観はほとんど目立たなくなっています。こうした中、断片的な情報を検討することで、古い景観とその意味を探るのも楽しいことです。



## 入野村の村明細帳に見る江戸時代の神社

蛸塚の山神社は、民俗的世界観に基づく境界の祭祀の場でした。西区神ヶ谷町や、西区深萩町の山神社でも、同様の祭祀が行われたことでしょう。

博物館所蔵の竹村家文書には、宝暦9（1759）年に、入野村が浜松藩庁に提出した村明細帳の写しがあります。



この帳面には、入野村の神社を列記するくだりがあり、次の各社を書き留めています。

八幡宮、若宮、八王子宮、大明神宮、山神宮（3か所）、赤宮神、天化宮、天神宮（3か所）、浅間宮、神明宮、稲荷宮、八剣

このように、入野村には16の神社があり、それぞれ、民俗的世界観に従って、村内に配置されていたと考えられます。

また、入野村の村明細帳には、現在の神社とことなる風景が認められます。というのは、八幡宮境内には虚空蔵堂が、八王子宮境内には薬師堂があったのです。明治維新に伴う神仏判然令によって、神社にあった仏像や仏具は廃棄され、仏堂は破却されました。それ以前には、浜松のあちこちの神社に、当たり前のように仏具をそなえた仏堂があり、仏像を安置していたことがうかがえるのです。

人びとは民俗的世界観を強く意識して祭祀を行い、境内には仏堂があって仏像を拜む。江戸時代の村々では、こうしたかたちの神社が営まれたのです。

## 催し物のご案内

### ★特別展「古代東海道駅伝展」

開催中～11月24日(日)

古代の道と交通をテーマに遠江国、駿河国などの東海道諸国と平城宮の発掘出土品を紹介します。

○担当学芸員によるギャラリートーク(展示解説)

10月16日(水)、11月6日(水)

14:00～14:30

○伊場遺跡群歴代発掘調査員によるギャラリートーク駅伝

10月19日(土)、11月2日(土)、11月9日(土)

11月16日(土) 14:00～15:00

○記念講演会「古代東海道の官衛遺跡と交通」

10月26日(土) 13:00～16:30

会場：浜松市地域情報センターホール

### ★社会科自由研究優秀作品展

開催中～10月27日(日)

### ★秋を味わおう

10月19日(土)、20日(日)



### ★ミニ鬼瓦づくり

11月3日(日) 文化の日

受付時間：9:30～11:30 13:00～15:30

定員：午前・午後各20人(当日先着順)

参加費：350円

粘土をこねて、平城宮跡・法華寺出土の鬼瓦をモチーフにしたミニ鬼瓦を作ります。

詳しくは博物館HPで。

### ★かやぶき屋根の下で聞く日本の昔ばなし

11月9日(土) 午後2時～

会場：蛸塚公園内旧高山家住宅

※事前申込み不要。

直接、会場へ。



浜松市博物館

開館時間：9時～17時

〒432-8018 静岡県浜松市中区蛸塚四丁目22番1号  
Eメール：hamahaku@city.hamamatsu.shizuoka.jp

10・11月の休館日：10/1～4、7、15、21、23、28  
11/5、11、18、25～30

電話：053-456-2208 FAX：053-456-2275  
HP：https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/hamahaku/